

1930年代の中国における水産教育の変遷

— 水産学校教育から漁民教育への試み —

楊 峻 懿

はじめに

1930年、浙江省建設庁は沿海各県の小学校の教員を招いて「暑期水産講習会」を開催した。これは小学校の水産教員を養成することによって、漁民に水産知識を教えようとするものであった¹⁾。第三世代の水産人材の代表的人物である黄文澧は、これが中国水産教育平民化の先駆けであると、「我国水産教育化、万歳万万歳」というスローガンを唱えた²⁾。

1910年における中国最初の水産教育機関・直隸水産講習所の創立から1930年まで、中国の水産教育はすでに20年間を経ている。沿海各省において、江蘇省立水産学校（1912年）、浙江省立高級水産学校（1915年）、福建集美高級水産航海学校（1920年）、広東水産講習所（1929年）が續々と創設された³⁾。しかし、各水産学校は順調に発展したわけではなかった。1930年前後、中国水産教育機関の教育上の諸問題に対して、当時の水産人材がどのように意識し、いかに解決したのかについては、筆者が旧稿において今後検討したいとした課題である⁴⁾。また一方で、冒頭で述べたように黄文澧が漁民教育に高い評価を与えた理由、換言すれば、水産学校で教授された知識はいかに漁業の現場で活動する漁民に伝習されたのか、すなわち漁民向けの水産教育の実態についても分析を加える必要がある。

漁民向けの水産教育に関しては、孫善根が1920～40年代の浙江省漁民子弟学校の状況を検討した⁵⁾。江蘇省については、李士豪・屈若拳、秦錦清が漁業技術伝習所・漁業指導所などの漁民教育に関わる水産機関、および漁業練習生のような水産人材育成モデルに言及したが、詳しくは検討されていない⁶⁾。また1931年には、漁業の重要性を民衆に喚起するために「上海市改進黨業宣伝会」が開催されたことについては、李士豪・屈若拳、秦錦清、従子明・李挺らが簡単に紹介しているが⁷⁾、宣伝会の出版物である『江蘇省上海市改進黨業宣伝会記念冊』⁸⁾は、管見のかぎり、利用されたことがないようである。後述のように、記念冊の中には、漁民の現状や水産人材・政府機関による漁民教育がいかに実施すべきかについて記載した文章があり、十分に検討に値する。

本稿では、主に『中国建設』水産専号（上）・（下）⁹⁾、『江蘇省上海市改進黨業宣伝会記念冊』、および『皋農』という雑誌を利用し、1930年代の水産人材が歴史上、国家の周縁に置かれてきた漁民をどのように認識し、その重要性を意識しながらいかなる活動を行ったのかの分析を通じて、1930年代における漁民の生活状況、水産人材の漁民への関心の度合い、漁民教育のあり方について検討を加えることにしたい。特に一事例として江蘇省如皋県漁業指導所を取り上げなが

ら、漁村における漁民向けの水産教育の伝習がどのように行なわれたのかを解明する。

一 水産人材の漁民教育の認識と漁業知識伝授上の経験

(一) 水産人材の漁民教育への重視

前述のとおり、1930年までに中国の水産教育はすでに20年を経ているが、中国の水産教育上にはいまだに多くの問題が存在していた。費鴻年は中国の水産教育機関の問題を以下の4点にまとめている。

第1に、水産人材の欠乏である。中国の各水産教育機関において育成された学生は水産上の様々な問題を解決できず、外国の書籍を利用し、自分の知識を補うこともできない。第2に、水産学校および水産試験場の設備は粗末で、科学試験を行なうことができない。第3に、中国の漁業状況に適応するか否かを考慮せず、外国の漁法をそのまま導入し、伝統漁業の改良を重視しない。第4に、即効を求め、最も基本的な漁業調査には注意しなかった¹⁰⁾。

さらに費鴻年は水産学校の学生の進路に対して、以下のように述べている。

中国の中等水産学校の卒業生はすでに二、三千人以上に達したが、今なお水産業に従事しているのは百分の一に達していない。〔水産業に従事している人の〕ほとんどは海外に行き、帰国後に水産業に従事した者ばかりである。だから水産教育の効率を高めようとする、中等水産学校は多くは開設せず、一つの水産専門学校を創設し、学生の数も多くする必要はない。他の中等水産学校は漁民小学校や漁民補習学校に変更した方がよい。漁業学校は漁民の子弟を募集し、国民の必要になる知識を教え、また、若干の水産知識を教授し、卒業後もこれまでどおり漁民とさせる。漁民補習学校は講習会のような短期の学校であり、識字、衛生、公民道徳などの科目を教え、また若干の中国の漁民が知るべき事情を教授する¹¹⁾。

沿海各省の水産学校を数少なからぬ学生が卒業したが、卒業後、実際に水産に従事する者は非常に少なかった。侯朝海はこの原因を学生たちの習慣、体格、観念などに求めている¹²⁾。旧稿で検討したように、1924年、江蘇省立水産学校における「水産風潮（水産騒動）」を招いたのは、学生が卒業後の進路に不満を持っていたからであった¹³⁾。一方、漁民の子弟のほとんどは水産学校で教育を受けられなかったため、水産知識が漁業の現場で活動していた漁民にまで伝わることはなかった¹⁴⁾。だからこそ、費鴻年は水産学校が漁民を募集し、漁民向けに知識を伝習することの重要性を強調したのであった。

かかる漁民教育について注目すべきは、単に教育の面に止まらず、当時の中国の漁業や漁民が直面していた危機を意識しながら、救済を行おうとしたことであった。

〔我が国の〕漁場の素晴らしさ、水産物の豊かさは、各国を広く見わたすかぎり、ほとんど

比肩するものがない。しかし沿海の漁民は古い漁法にこだわり、また政府は漁業の奨励・改良の方法がないため、水産業はまったく発展がないばかりか、逆に渤海・黄海・南シナ海の各漁場は日本人に奪取されている。彼らは我が国〔の領海〕において漁獲した水産物を日本に運んで、加工してから再び中国にまで輸送して販売する。単にこれだけで我が国の損失は年間1億4000元に止まらないのである。もし権利（漁業権）の挽回を求めず、巨大な〔経済上の〕手拔かりを防ごうとしないならば、人民の生活は困窮してしまう¹⁵⁾。

漁民への教育、漁法の改良は水産事業の振興、国家の権益と密接な関係を有していた。侯朝海は日本の「侵漁（領海への侵入と密漁）」に直面して、漁業は国家の経済、ひいては領海主権と深く関わっていると指摘した¹⁶⁾。漁民への水産教育の伝習や漁民救済は1930年代の水産人材が解決しなければならない問題である。

費鴻年と同様に、張楚卿は漁民の補習教育や漁民小学校の設立の重要性を強調し¹⁷⁾、前者に関して以下のように述べている。

現在漁民の半分以上は文字が読めず、完全に過去の経験や伝えられた方法に頼るしかない。水産業の新しい知識を伝授することは確かに非常に困難であると考えられる。ゆえに、将来の水産業の改良から見れば、補習教育を実施しなければならない。まず漁業が発達した地域に漁民補習学校を設立し、漁民に短期の訓練を受けさせる。あるいは休漁期を利用し、漁業団体から漁民を招き、短期の講演会を行ない、〔漁業に関する〕新知識を学ぶ興味を引き出す。その後、一步一步進んで新しい知識を注ぎ込み、このようにすれば、はじめて改良の望みがある¹⁸⁾。

かくして1930年代に至って、漁民への知識の伝習の重要性を認識した水産人材は、どのように活動を展開したのであろうか。かかる問題を検討する前に、水産人材の過去の漁民への知識の伝習上の経験を振り返ってみたい。

（二）漁民向けの水産教育上の経験

漁業技術伝習所

水産学校の教育の目的が水産人材を育成する点にあるとすれば、漁業技術伝習所は漁民に漁業に関する知識・技術を伝習する教育機関であるといえる。1917年11月31日に「漁業技術伝習所章程」が頒布された¹⁹⁾。そこでは、漁業技術伝習所は実地の漁業技術・漁具の製作技術・水産物の加工技術に関する伝習、巡回講演、漁業調査、漁具の設計と購入の6つの事業について業務を展開すると規定されている²⁰⁾。

「漁業技術伝習所章程」が発布されてまもない1918年1月、農商部総長の田文烈が浙江省長に宛てた公文書中において「新式漁具や漁法を漁民に伝授するために、李士襄を派遣して定海漁業技術伝習所を準備し創設し、経費はまず農商部より出し、効果があれば、互いに協議して方法

を再検討すべきである²¹⁾」と書いたとおり、農商部によって定海漁業技術伝習所の設立が提案され、初期の経費も支出されようとしていたことがわかる。そして1918年2月26日には「定海漁業技術伝習所伝習規程」が頒布された²²⁾。また5月になると、李士襄は定海漁業技術伝習所所長を任ぜられた²³⁾。一方、江蘇省においても1919年に王文泰が海州漁業技術伝習所の創設を準備し²⁴⁾、翌1920年に所長となった²⁵⁾。

李士襄・王文泰は1910年・1911年に農商務省水産講習所漁撈科を卒業した最初の2名の中国人留学生であり、それぞれ直隸水産講習所や江蘇省立水産学校の初代漁撈科主任を担当した²⁶⁾。

「定海漁業技術伝習所伝習規程」には、漁業技術伝習所の伝習の方法について、所内伝習、漁場伝習、漁港伝習の3つに分けて記述されている(表1)²⁷⁾。

表1 漁業技術伝習所の伝習方法・時期・内容

方法	時期	伝習内容
所内伝習	1～3月	漁民を伝習所に集めて、漁具の製造や各種機械の使用方法を教える。
漁場伝習	4～7月	技術員は漁具を携えて実習船に乗り、各港に赴いて、現地で技術を伝習する。
	11～12月	
漁港伝習	9～10月	技術員は漁船が集結する漁港において講演を行う。

このように詳細な伝習方法にまで言及していたが、実際には、必ずしも順調には進まなかった。1918年4月、定海漁業技術伝習所は漁民の子弟を募集し、所内で漁具の改良について伝習しようとした。しかし漁民はこれに不信感を有していたため、応募する者はなかった。そのため仕方なく現地での伝習に変更した²⁸⁾。また1921年には漁船を購入して学生の実習船として使用しようとしたが、漁船の部品や操縦技術などの問題が発生したため、廃棄されることとなった。そして1923年、ついに定海漁業技術伝習所は廃止され、海州漁業技術伝習所に合併されることになった²⁹⁾。

一方、海州漁業技術伝習所は漁船「海鷹号」を購入して水産試験を行ったほか³⁰⁾、巡回講演も実施した。技術員であった田家鼐の「海州漁業技術伝習所民国九年份巡回講演日記」の中から、漁民への水産知識の伝習の状況を紹介してみよう。9月21日から10月16日にかけて約1ヶ月の間、田は江蘇省沿海の贛榆・東海・灌雲の3県をめぐって漁民に対して水産に関する知識を講演した³¹⁾。管見のかぎり、このような広範囲の漁民に向けて巡回講演したのは初めてのことである。1回目の講演について日記の中では、以下のように記している。

9月21日、本所は墟溝(地名)近くの漁民に布告を出し、明晩の5～6時に漁業新法について説明し、7～8時にスライドを見せて講演すると伝えた。翌朝(22日)はしとしと小雨が降っていたが、午後になると、西北風が吹き始め、天気は次第に晴れてきた。伝習所に来聴した漁民の数は200人あまり、来賓は合計何十人にも達した。人数が甚だ多かったため、

中庭において露天講演した。まず所長から講演の主旨が報告され、次は技術員の田家鼐が海外の各種の重要な漁業、および江蘇省の漁業の改良すべき事項を1つひとつ説明し、所用時間は極めて長かった。その他に漁業に関するパンフレットを漁民に配って回覧させた。しばらくしてスライドを映写し、合計500枚あまりを見せた。すべての講演が終了すると、漁民は外国の巧みな漁法を賞賛し、羨ましがった。ひいては多くの漁民が伝習所に定期的に講演することを求めた。ここから見ると、漁民は〔今後〕良い方向へと向かい、漁業の改良は容易なのではないかと思われた³²⁾。

ここには水産人材による漁民の水産知識の伝習の状況、および漁民の新式漁業に対する興味・関心がうかがえる。このように漁業技術伝習所は漁業知識の普及、漁業技術の伝播に少なからぬ役割を果たしたと推測できるが、政局の変動や自然災害の頻発のために、1926年に海州漁業技術伝習所も閉所となってしまった³³⁾。

定海・海州両漁業技術伝習所は経験の蓄積がなく、初めて漁民へと水産知識を伝習しようとする模索的な段階にあった。前述のように、資金および水産人材の欠乏、漁民の水産学校・水産行政機関に対する不信感などもあって、漁民向けの水産知識の伝習は必ずしもうまく進まず、最終的には中止されてしまったのであった。しかし水産人材は講演を行ったり、漁業状況も調査したりして、漁民との接触を通じて、ある程度漁民の状況を掌握できるようになっていた。かかる経験を活用しながら1930年に開催された「暑期水産講習会」は、水産教育の平民化の1つの成功例といえる。次はこの「暑期水産講習会」の展開について取り上げ、新たな漁民向けの水産教育の状況について検討を加えることにしよう。

暑期水産講習会

黄文澧が高く評価した「暑期水産講習会」については、次のような記載が残されている。

浙江省は全省が海に面しており、魚と塩が豊かである。しかし漁民は知識が幼稚で、多くの水産資源は十分に利用されていないため、放置されたままの状態となっており、甚だ惜しいことである。浙江省建設庁は水産事業を極めて重視し、定海の水産学校（浙江省立高級水産学校）を整頓し拡充して人材を育成するほか、水産事業を宣伝・改良するために、水産学校の校長である張柱尊を命じて「暑期水産講習会」を開催し、沿海各県の小学校の教員を招き、水産に関する常識を教え、食事と宿泊を提供させることとした³⁴⁾。

「暑期水産講習会」は漁民に漁業知識を直接に伝授するのではなく、40名の沿海各県の小学校教員を募集し³⁵⁾、まずは彼らに教育を施し、さらに彼らを媒介としてほとんど水産教育の機会を持たない漁民に知識を伝播させようとするものであった。7月20日から8月20日の1ヶ月の間に、水産行政、水産経営、水産養殖学、水産漁撈学、水産製造学、気象学、海洋学、水産生物

学などの基礎的かつ多様な水産知識を教えたようである³⁶⁾。また、教員については、以下のよう
に綴られている。

各講師は水産学の専門家であり、たとえば江蘇省立水産学校の校長馮立民と教員曹仲牧、江蘇省農鋁庁技正侯朝海、技士陳謀琅、江蘇省漁業試験場王文泰、浙江省立水産学校の教員黃文澧、張楚卿、金心衡らはみな水産学の俊英である。……黃文沛は水産企業科学化および世界水産事業の概要などに関する講演を行なった。千里の遠くからも受講する者があり、暑くても水産に関する研究の熱情は失われることがない。確かに、これは水産事業の前途が洋々としている兆しであろう³⁷⁾。

このように「暑期水産講習会」には、江蘇省立水産学校、江蘇省農鋁庁、江蘇省立漁業試験場、浙江省立高級水産学校の水産人材が集まっていた。うち王文泰は第1世代、馮立民・侯朝海・陳謀琅・張楚卿・金心衡は第2世代、黃文澧は第3世代の水産人材であり、当時の水産界の中核的な人物であった。水産知識の伝習方法であれ、教員の選抜であれ、「暑期水産講習会」は中国の各世代の水産人材が模索しながら成功を取めた事例であるといえよう。

1910～20年代の漁業技術伝習所、1930年の「暑期水産講習会」など、水産人材は様々なかたちで模索しながら漁民への水産知識を伝習しようと試みていた。かかる漁民との接触の中で、1931年に侯朝海は江蘇省の漁民教育は3つの段階を踏むべきであると指摘した。第1に、漁業区に郷村師範学校および漁民小学校を設立すべきこと。教員に水産知識を教えるにとどまらず、現場の問題にも対応でき、また漁民の子弟も系統的に水産知識を学習することができる。第2に、漁民教育館および水産業補習学校を設置すべきこと。これによって漁民に水産知識を伝授し、ひいては漁村社会を改良することができる。第3に、水産試験場・水産学校・漁業指導所が分業して水産業の指導を行なうべきこと³⁸⁾。以上のように、漁業の現場のレベルから専門的な水産知識まで、段階的に系統立った漁民教育の機関を作るべきことを提唱したのである。

このように農商務省水産講習所を卒業した中国人留学生、および彼らが帰国後に母国において育成した水産人材は、中国水産教育の問題、時代遅れの漁業の現状に直面し、水産学校で人材を育成しながら、現場の漁民にも水産知識を伝習して水産業を振興させようと試みていた。ただし、漁業の重要性を本当の意味で認識していたのは一部分の水産人材のみであり、社会全体としては漁業の重要性を依然として認識していなかったのである。

そこで注目したいのは1931年に漁業を宣伝するために上海において開催された「江蘇省上海市改進漁業宣伝会」である。先行研究ではこの宣伝に注目せず、記念誌として刊行された『江蘇省上海市改進漁業宣伝会記念冊』も利用されていない。この宣伝会は漁民生活状況、漁民教育・救済に関わる非常に重要な宣伝会であった。次章では、この漁業宣伝会について分析を加えてみることにしよう。

二 社会における漁民への注目の喚起と漁民教育対策の提出

— 「江蘇省上海市改進黨業宣伝会」を中心に

(一) 「江蘇省上海市改進黨業宣伝会」とは

漁業の発展、漁民教育の重要性を認識した水産人材は1931年に「江蘇省上海市改進黨業宣伝会」を開催した。この宣伝会とはいかなる会議であったのだろうか。『農業周報』の中には、以下のような記述が見られる。

中国沿海漁業区において、続々と日本漁船の越界侵漁に遭い、1年間で失った漁業の権利はいったいいくらあるかわからない。〔この問題に〕注目したわが国の民衆は少なくないが、抗議した者はやはり多くは見られない。なぜなら、中国の漁業は今もなお発達しておらず、すべての漁区において自ら漁撈できず、外国人に侵入されてしまっていたからである。江蘇省農鋳庁・上海市社会局は〔この問題を〕考慮するからこそ、改進黨業宣伝会を開催して漁業の提唱から着手し、外国人による侵漁という根本的な問題に反対する。この宣伝会は江蘇省党務整理委員会、上海市党部、江蘇省農鋳庁、上海市政府社会局、江蘇省立漁業試験場の5つの機関を連合して組織し、漁業機関団体・学校・専門家および他の専門家に通知して参加させたと聞いている。宣伝経費2100元は農鋳庁、社会局、漁業試験場の3つの機関により分担することを決定した³⁹⁾。

宣伝会の開催には、上記の5つの政府機関の代表だけではなく、1931年1月から江蘇省立水産学校の校長馮立民や浙江省立高級水産学校の校長張君一などの水産人材が準備会・総幹事会議に出席し、宣伝会の開催を進めていた⁴⁰⁾。また江蘇省農鋳庁の技正・設計委員⁴¹⁾の侯朝海は幹事長となり、宣伝会に関わるすべての事務を取り仕切っていた。江蘇省立漁業試験場の場長王文泰も総務総幹事として、幹事長と副幹事長に協力した⁴²⁾。前述のとおり、両氏は1930年の「暑期水産講習会」に教員として参加している。

上記史料の中では、中国の漁業は立ち遅れ、日本の漁船が中国の漁業区に侵入して操業することに言及している。1929～31年は日本による江蘇・浙江省沿海における「侵漁」の最も深刻な時期⁴³⁾であったため、宣伝会を通して漁業の重要性を認識させ、新式漁業を発展させようとしたのであった。つまりまずは知識人たちに水産業の重要性を認識させようとしたのである。それは次のような記載にもうかがうことができる。

各種の事業の展開は確かに知識界の提唱にたよるのである。近年来、有識者は実業を振興させないかぎり、中国の滅亡の危険を救えないことを認識し、助けを求めて大いに走り回り、声を振り絞り、これによって各種の実業を提唱する宣伝者となった。ただし、ただ水産業のみは依然として社会の人々に無視されている。これは水産業が国家を豊かにさせず、国民に

利益をもたらさないからではない。なぜなら、数千年以来、「賤魚」(漁業を蔑視する)の2つの文字が心の中に深く根づいているからである。ゆえに漁業の重要性を認識させるにはわが知識界に頼らざるを得ないのである⁴⁴⁾。

次いで、漁民にも漁業の重要性を認識させようとしている。

言うまでもなく、古いしきたりを踏襲するのは、わが国の国民の従来が悪習である。漁法は子が親のやり方を見て伝えられ、何年も変わらない。漁具は古い物を真似するだけで、いつまでも変更しない。そして彼らは漁撈を行う意欲がもともと薄く、船上生活でお腹が満たされればそれで十分である。その中に少しお金を持っている者がいても、みないい加減で、大規模な計画を有していない。かかる状況の中で、〔漁業を〕振興・保護・奨励しようとするのは適切ではない。まず解決しなければならないのは、漁業に対する改進ではなく、その宣伝である⁴⁵⁾。

知識人であれ、漁民であれ、漁業を軽んじるのは1930年代の現状であった。漁業の重要性に対する宣伝は各種の水産事業を行なう前提であったため、政府機関や水産人材の協力のもと、4月4日から10日にかけて順調に開催された。具体的な方法としては展覧会と同様であり、展覧宣伝、刊部宣伝、遊芸宣伝3種類の方法を用いて宣伝を行なった。1週間で参観人数は5、6万人に達した。展覧宣伝は合計12室に分けられ、水産物の標本、海洋観察器械、漁場図、漁網、漁具、中国・外国の漁船模型や漁具、水産品の価格や輸入・輸出の図表などの漁業に関わる幅広い内容が展示された。遊芸宣伝では漁業に関する映画が放映された。その他に歌舞団の演出もあった⁴⁶⁾。刊物宣伝では水産人材が著した文章を装丁して製本した。すなわち『江蘇省上海市改進漁業宣伝会記念冊』の前編「改進漁業之理論与实际(漁業の改進の理論と実践)」である。

『江蘇省上海市改進漁業宣伝会記念冊』の中には漁業人材が著した文章が掲載されている。そこには漁業科学、海洋調査の重要性、遠洋漁業の発展、水産試験施設の設立、漁業合作社、水産行政、護洋、養殖計画、水産事業推广、漁港の建設、漁法の改良、水産製造業計画、漁村教育、漁業と食糧問題、水産金融、漁会など、漁業に関わる幅広い範囲が含まれている。次節では、これらのうち漁民に関わる文章を取り上げ、水産人材が漁業現場に身を置いていた漁民の生活状況をどのように認識し、現状を変えるためにどのような対策を講じようとしたのかを検討してみよう。

(二)『江蘇省上海市改進漁業宣伝会記念冊』から見た漁民教育の提案

本節では、漁民向けの水産知識の伝習方法、漁村における識字運動、漁民の娯楽の改善の3つの角度から水産人材の提案を見ていく。まず漁村において水産知識はどのように伝習されるべきと考えられていたのかである。

侯朝海は、漁民の子弟は水産学校に通う余裕がないため、短期漁民講習会・漁民夜校・漁民連歡会・漁民談話会・水産業宣伝運動などの講演宣伝、水産展覧会・巡回展覧会などの展覧宣伝、漁民の識字教育の展開などの文字宣伝を通して水産知識を伝習し、漁業を押し広めることを提唱した⁴⁷⁾。

錢仲南は、漁民が分散して居住しているので、漁業指導所を多数設置して、漁民に漁業に関する新たな技法、漁撈・天候観測などの知識を教えるべきであると述べた⁴⁸⁾。また侯朝海は、漁民の困難や問題については、学校の教員を通して手紙のかたちで漁業指導所や、漁業の主管機関である推広委員会・推広部、あるいは漁業専門家にたずねるように提案している⁴⁹⁾。

つぎに漁民の教育に関わるものとして識字の問題があった。李兆輝は漁民小学校・補習夜学校の創設によって漁民の識字運動を展開し、漁民の知識を高めさせようとしている⁵⁰⁾。

さらに漁民の娯楽問題がある。漁民の娯楽の改善に関して、江蘇省立水産学校の卒業生であった徐鳴鵬は、以下のように述べている。

わが国の漁民は休漁期に賭博を唯一の娯楽とする。漁民の集まる所に賭博場が立ち並んで、〔漁民は〕昼も夜も休まず喧しく賭博する。さらに一部分の悪党は漁民のこうした心理に迎合し、甘言で〔漁民を〕誘惑し、不正な手段で〔金銭を〕かすめ取るという目的を達する。ゆえに漁民の中にはさらに多くの貪欲〔一攫千金を狙う〕となり、道徳が墮落し、家産を蕩尽するまで賭博に溺れている者がいる。その他に暴飲して事件を起こし、一時の快樂を得るのも漁民の悪習である。これらの行為のすべては〔社会に対して〕害が極めて大きい。挽回の唯一の方法は漁民に正当な娯楽を与えることである。たとえば、漁民倶楽部を設けたり、漁民運動場を建設したりすることは、みな漁民の娯楽を改善するための急務であるといえる。休漁期に漁民が正しい娯楽を持てば、悪事をやめ正道に立ち返ることができるだろう。そして賭博に溺れる暇はなくなる。他にボート競技や水泳試合なども休漁期の娯楽としてよいであろう。漁民の技能を鍛錬できることはよいことである。ただし漁民の知恵と見識は浅薄であり、頭が単純であり、考え方と趣味も特別である⁵¹⁾。

漁期に漁民の大多数は収益を得るが、食費以外に金銭を使ってしまい、新しい漁船を造ろうとする者は非常に少なく、賭博のほか女遊びや飲み食いなどに金銭を消耗してしまう⁵²⁾。なぜなら、海上生活は極めて危険で、いつでも生命を失う可能性があり、休漁期に享楽を貪ろうとするからである。運動場の建設や遊泳などの試合以外にも、漁民への教育を通して、彼らの観念、生活方式を変えさせ、賭博などの悪い習慣を次第に減少させていこうとする提案も見られた⁵³⁾。

以上は水産知識の伝習、漁民の識字教育、娯楽の改善に関する水産人材側の提案であった。同じ宣伝会の場ではないが、灌雲県漁会代表である王宗琴——一般漁民ではなく、魚行の経営者の可能性が高い——は次のように発言している。

農漁庁から豊かな水産専門知識・技術を持つ人材をそれぞれ沿海各地に派遣し、着実に調査し、宣伝を行ない、全力を尽くして指導して、漁業を改善する計画を定めれるならば、漁民に新式漁具の採用、染料・漁網の改良などのことを指導するのに役立つ。あわせて重要な埠頭において状況を見極めたうえで、海洋調査所、養殖試験場、漁業試験場、製造試験場を設立してもらおう願う⁵⁴⁾。

王は、政府と一般漁民の間の立場から、前述の水産人材と同じように、水産技術・知識の普及、水産機関の設置を求めている。政府側、水産人材および漁会代表の提案を踏まえたうえで、水産業の改善、漁民教育の普及はどのように展開したのであろうか。次章では、漁村における水産人材の活動を通じてこの問題を考えてみたい。

三 漁村における漁民への指導と漁民教育

(一) 江蘇省立漁業試験場と漁業練習生の育成

漁具・漁法の改良の役割を担ったのは漁業試験場であった。黄文澧が試験場の重要性について、以下のように述べている。

漁業者の成功および発達は漁具の優良さにある。近年来、欧米の水産先進国はどのように漁獲額を増加させるのかに対して多大の心血を注いだ。また多年の試験の唯一の目的は漁具の改良である。中国の漁業が発達しない大きな原因もここにある。中国の漁業者は数千年前より祖先から伝えられた漁具と漁法を「万能の宝」と見なし、まったく改良せず、指導と提案を受け入れないのである。彼らの漁獲物が多くないのは当然である。政府はこれに留意し、早急に水産試験場を設立し、各種の漁具と漁法の改良を行い、これをもって〔中国の水産業の〕救済を図るのである⁵⁵⁾。

江蘇省立漁業試験場は1930年10月に創設され、1931年5月に「江蘇省立漁業試験場組織章程」が頒布された。江蘇省政府は王文泰を場長に任命した。業務内容は技術、推广、事務の3部に分けられた⁵⁶⁾。技術には漁業調査、研究、実験や漁業技術、施設の普及など、推广には水産技術の宣伝、各県の水産指導所の指導、漁村の改造および漁業の改良、事務には出版物『漁況』および漁業書物の出版、行政、財務などがそれぞれ含まれていた⁵⁷⁾。

ここで注目したいのは江蘇省立漁業試験場の附設機関として設置された漁業指導所の役割である。たとえば、崑山漁業指導所は漁民の漁業指導機関として1931年10月に成立した。12月に江蘇省立漁業試験場が出版した雑誌『漁況』の中で、漁業指導所が進めていた事業は、主に3点があった。

第1に、漁民閱報社を組織した。識字運動の先導役として新聞や、漁業に関する書籍を漁民に

提供し、漁民知識を増進したり、漁民の心身の教養を促そうとしたりした。第2に、学校・私塾を調査した。嵯山の漁民の子弟の中で、教育を受けた者は極めて少なく、現存の小学校や塾を調査し、漁民向けの教育を準備した。第3に、漁業指導所の所在地である箱子畧の漁民の人数などの一般的状況を調査した⁵⁸⁾。

漁民閲報社設立の識字運動の先導役としての効果は、非常に顕著であったため、1932年になると、さらに『漁業季刊』『水産学報』『水産彙誌』『水産』などの水産雑誌もあわせて配架された⁵⁹⁾。漁業に関する調査や漁民の識字教育は同時並行で進められ、水産指導所の中心的な業務の中心と見なされていた。

嵯山漁業指導所を皮切りとして、1931～1932年の間に、南通、如皋、塩城、常熟にも漁業指導所が設置された⁶⁰⁾。そして同時に、漁業指導所の指導員を育成するために、漁業練習生制度を定めた。「江蘇省漁業指導人員訓練辦法」(1931年)の中に見える漁業練習生制度は、次のとおりである。

- 1、江蘇省立漁業試験場および漁業指導所は漁業指導の人材を育成するために、本規定によって漁業練習生を招き、訓練する。
- 2、江蘇省立漁業試験場は本省沿海各県の出身者から2名の練習生を募集する。南通、如皋、塩城、常熟各県の農業改良場附設漁業指導所はそれぞれ本県から2名を募集する⁶¹⁾。

ここには練習生を募集する目的や応募資格がうかがえる。試験で練習生を選抜し、1級と2級に分け、2級とは水産学校漁撈科の卒業生、1級とは水産学校製造・養殖科および普通の高級中学校の卒業生であった⁶²⁾。ちなみに、1931年に採用されたのは王曾濟、王進升の2名のみであった⁶³⁾。また翌1932年8月に、2回目の練習生を募集し、8名を採用する予定であった。結果、18名の応募があり⁶⁴⁾、うち1級は12名、2級は6名、試験官は侯朝海であった⁶⁵⁾。試験の結果、8名の合格者の氏名や彼らが卒業後に服務した場所は、表2のとおりである。

表2 漁業練習生の氏名・級別・服務場所

氏名	楊丕基	徐建安	金之玉	葛啓	許峯軒	沙松濤	周念慈	董連普
級別	二級	二級	二級	一級	一級	一級	一級	一級
服務場所	常熟	南通	嵯山	南通	嵯山	如皋	如皋	塩城

〔典拠〕「実業庁令知本場訓練本屆漁業練習生辦法並指定各生服務場所」(『漁況』第47期、江蘇省立漁業試験場刊行、1932年9月)1頁。

各練習生には手当があり、第1級には月に25元、第2級には30元であった⁶⁶⁾。漁業練習生の教育および訓練状況については、以下のような記述が見られる。

江蘇省実業庁は本省の漁業の人材を育成し、将来の漁業指導を行なうために、江蘇省漁業人員指導辦法に照らして漁業練習生を募集する。また3級の訓練を規定し、訓練期間は2年から3年までとする。毎年の訓練の進め方は、まず2ヶ月間、授業を行う。その後、2ヶ月間にわたって実習を実施する。最後に8ヶ月間〔漁業指導所の〕助手を務める。実業庁の庁長〔何玉書〕によって任命された、技正の侯朝海および試験場場長の王文泰は、協力して訓練の事務を主催する。本年度はすでに試験場で授業を開始した⁶⁷⁾。

侯朝海、王文泰、張柱尊、陳謀琅、陳椿寿、金志銓、巫忠遠などの水産人材は、漁業専門科目を教えるほかに、海事の専門家である娄世誠、大中華造船廠經理である楊俊生にも依頼して、船舶の操縦に関わる知識を教えさせた⁶⁸⁾。このように第一、二、三世代の水産人材を含む水産人材は、教員として重要な役割を果たしていたことがわかる。また、水産科目から見ると、水産専門学校と同様、極めて専門的な水産科目を教えていた。12月の初めに、授業が終わると、練習生は実習を開始した⁶⁹⁾。しかし1932年になると、実業庁は建設庁に合併され、漁業練習生制度は中止となり、すでに入学していた漁業練習生は各県の漁業指導所に派遣され、漁業の指導に協力することになった⁷⁰⁾。

(二) 如皋漁業指導所および水産人材の活動

前節ですでに言及したように、南通、如皋、塩城、常熟の4つの地域においても漁業指導所が設置された。本節では、如皋漁業指導所を取り上げ、漁民向けの水産教育がいかに推し進められたのかについて分析を加える。如皋県漁業指導所を取り上げる理由としては次の2点がある。第1に、史料を見るかぎり、漁民学校を設立したのは如皋漁業指導所だけであった。南通漁業指導所の所在地である呂泗——漁民はおよそ7000人いた——にも教育施設がまったくなかったため、漁民小学校を設置しようとする計画は存在した⁷¹⁾。しかし現在のところ、呂泗の漁民学校に関する記載は見つかっておらず、実際に設置されなかったと推測される。第2に、如皋県は雑誌『皋農』を発行し、如皋漁業指導所の情報を載せており、検討に値する。

1916年、如皋県には第一農場が創立された。しかし27年には停止となった。翌28年には如皋県棉作場、如皋県立農場を経て、31年7月には如皋県農業改良場に改組された⁷²⁾。雑誌『皋農』は30年6月5日に如皋県立農場によって創刊号が発行されたが、資金および人手の不足により休刊となってしまった。31年2月になると、復刊して第2期が発行され、以後月刊として刊行された。32年12月、江蘇省実業庁が建設庁に合併されると、如皋県農業改良場は事業を停止し、『皋農』は休刊となった。32年まで第1巻12期と第2巻11期を含めて合計23期を発行した⁷³⁾。1933年10月には如皋県農業推广所によって第3巻が復刊され⁷⁴⁾、その後、第7巻第2期まで合計59期が刊行された⁷⁵⁾。『皋農』の内容は農業・林業・牧畜業・蚕糸業・漁業などの幅広い範囲に及んだ。漁業に関わる部分には、如皋漁業指導所の状況、漁民小学校・夜間学校、漁民教育の状況について記載されている。

農鋳庁は1932年、徐郁⁷⁶⁾を派遣して如皋県漁業指導所の開設を準備し始めた⁷⁷⁾。33年には如皋県漁業指導所が直鎮に創設された。直鎮高級小学校の校舎を借り、標本室は2間で、魚、エビ、蟹、貝類の産地・生活習性・回遊規則・漁撈季節などを展示した。図表・資料室も2間あり、各種の図表、図書、新聞や『漁況』などの漁業雑誌も所蔵されていた⁷⁸⁾。

如皋漁業指導所の成立後、まず実施されたのは、漁業指導員による如皋県の漁業状況に関する調査であった。「如皋縣農業推廣所漁業指導員敬告漁業界書」の中には、以下のように述べられている。

あなたたちはただ経験した苦痛をすべて吐露するのみで、漁業発展の使命を担う私たちが〔漁業に関わる〕利害を研究し、緩急を区別し〔漁業改良の各事項を〕次第に挙げていく。あなたたちの特別な負担やすべての苦痛を一步一步減少させ、ひいては解消させる。その一方で、あなたたちの生産や利益を増加させる手立てを講ずる。同時に、暇な時間を利用し、あなたたちや子供たちに漁業知識を与える。〔これによって〕何事も他人に頼らず、それぞれ自分の能力を発揮することができるようになる。ゆえに漁業指導員が第一歩としてあなたたちの詳細な情報を調査するのは、漁業を改善する参考とするためであって、税金と関わるものであると誤解しないでいただきたい。つまり私たちは漁業改善の使命を持っているのである。決して君たちの膏血を搾り取り、負担を重くするためではない⁷⁹⁾。

ここから漁民負担の減少や収入の増加という漁業指導所設立の目的を漁民に伝えようとしていたことがわかる。あえて税金について言及したのは、漁民は政府側に漁船の定期検査登記費、牌照費、旗照費などの各種の経費を納めなければならなかったもの⁸⁰⁾、困窮状態に陥っていた漁民を安心させるために、税金を徴収することが目的ではないことを説明する必要がある。こうした一連の調査を通じて、漁業指導員はある程度如皋県漁民の現状を把握できたものと思われる。

また「如皋県農業推廣所漁業指導員民国二十二年度工作進行計画書」の中には、当時の如皋県漁民の生活状況について、以下のようにまとめている。第1に、3万人以上が漁業に従事し、漁獲物の多少は漁民の生計に決定的な影響を及ぼしている。第2に、漁民への教育の欠如のために、伝統的な漁業技術が変革しないままに踏襲されている。第3に、当時、海賊猖獗の影響を受けて出漁が難しくなっていた。しかも近海における濫獲のせいで、収入は年ごとに減少し、生活は日々に苦しくなっていた。第4に、本国における漁獲量の不足のために、外国からの輸入品に依存するようになっていた⁸¹⁾。

これらの問題を解決するために、以下の2点が提案された。第1に、海賊の討伐を行い、漁民の生産・生活を回復させる。第2に、漁具・漁法の改良、漁船の購入や改造、指導や模範の提示によって、漁獲量を増やし、漁民の収入を増加させる⁸²⁾。

まず如皋県の海賊問題について見てみよう。前述のように、海賊問題は当時1930年代の江蘇・浙江省において非常に深刻な問題であった。如皋県において1934年4月のキグチの漁獲期

だけで、海賊に襲撃された漁船の数は29隻、拉致された漁夫は200人以上にもぼった。こうした海賊による漁獲物の略奪、漁夫の拉致や殺害はしばしば発生していた⁸³⁾。海賊の猖獗に対して、如皋県だけではなく、江蘇省政府も対応策を図るために「江蘇省沿海漁業保護会議」を開催したり、漁民自衛団を組織しようとしたりした。しかし政府の財力や行政的な実施能力、国内の政治的な環境などの原因により、海賊問題は根本的には解決することは難しかった。

海賊の猖獗および日本による侵漁や漁獲物の投げ売りなどの影響を受け、如皋県漁民は破産の危機に瀕していた⁸⁴⁾。収入を失った漁民は海賊になる場合もあった。漁業指導員であった張友声は、漁民の生活の改善を通じて、海賊に陥ることのないように、次のように語っている。

海賊の騷擾は社会経済の衰退や漁民経済の破産によって惹き起こされた。漁民は海上生活に慣れたので、ひとたび失業して生活が立ちゆかなくなると、あえて危な手段を選んで、犯罪の道に甘んじた。もし漁業方面の改良の効果が上がり、収入が増えて、衣食に満足するようになれば、言うまでもなく彼らは悪事をやめて正しい道に立ち返り、安心して生業に励むことができる⁸⁵⁾。

このように、漁民教育によって漁民の収入を増加させ、海賊へと転落させないようにするのは、当時の漁業指導所が直面しなければならない重要な課題であった。では、どのように漁業を改善し漁民を救済するのか。具体策について、指導員は以下のように指摘している。

目下の救済方法は以下のとおりである。漁具・漁法の改良によって漁場を拡大し、漁獲量を増加させる。合作社を組織し販路を開拓する。衛生かつ長期にわたって貯蔵するために製造品を改良する。輸送のための冷蔵設備を建造し、これによって商品価値を増加させ、市場で外国の製品と競争できるようにする。もし以上の方法を実施すれば、如皋県の漁業には望みがあるだろう。衰退する漁業を救済する方法は上述のとおりである。ただし知識を持っていない漁民に模倣・実施させるのはかなり難しい。ゆえにまず最も有効な宣伝を行ない、漁民の知識を増やし、しっかりと漁民の生活環境や漁業技術を調査する必要がある。これによって漁民の現状に合致した漁具の改良を行い、試験を実施するのである⁸⁶⁾。

漁民の救済には、実施しなければならない事業は多かったが、王庭松はまず徹底的に教育から着手すべきであると深く認識していた⁸⁷⁾。漁民は教育を受ける機会がほとんどなく、見識は非常に浅く、沿海には小学校があるものの、漁民の子弟の中で卒業できる者は極めて少なかったからである。その原因としては、以下の3点があった。第1に、漁民の生活が窮乏しており、子供を入学させる財力がなかった。第2に、沿海の学校は漁村から遠くて通うのに不便であった。第3に、8歳以上の子供はすでに貝類を採ることができ、労働力として家庭の収入に貢献していた⁸⁸⁾。

1934年春、張友声はすでに漁民学校の創設に着手し、曹月如を学校の教員として迎え入れる

よう請願していた⁸⁹⁾。次節では、如皋県漁業指導所に附設された漁民学校の状況について見てみよう。

(三) 如皋県漁民学校の開設

1934年8月の『皋農』には「漁民補習学校開学典礼特輯」のコラムが掲載され、漁民補習学校の状況について記録している。わざわざ開校式を行なったことに対して、王庭松は、以下の2つの理由を述べている。第1に、如皋県において初めての漁民学校の設置を祝うためである。第2に、漁民を集めて学校開設の主旨を彼らに伝えようとしたからである⁹⁰⁾。また開校式において張友声は学校開設の準備過程を以下のように説明している。

私が貴県に来てから、いつの間にか10ヶ月を経た。漁業の状況を見回すと、行うべきことは多い。……たとえば、漁業生産の増加、漁民経済の救済、および漁業建設上の必要な施設の設置などの事業である。しかし私たちは人材や実施能力が低く、および経済上の困窮のために、各事業を行なうことができないでいる。誠に申し訳ない。その理由としては、漁民の知恵と見識が狭く、古い思想を打破できず、よって人材や財力を集中できなかったためだからである。もしこれらの問題を解決しようとするれば、必ずまず漁民と接触しなければならない。しかし漁民の知恵と見識は幼稚であり、しかも公務員を恐れる。ゆえにかかる隔たりを打破するために、漁民の知恵と見識を一新しなければならない。知恵と見識を一新するには、学校を設立する必要がある。そのため漁業普及用に貯蓄した資金を出して本校設立の経費として使用する⁹¹⁾。

この記述を見るかぎり、如皋県における漁業技術や知識の普及には相当の困難があった。人材の面についていえば、各漁業指導所には主任のほか、職員は2~3人しかいなかった⁹²⁾。漁業に関する諸事業を短期的に展開することは容易ではなかったため、漁民への教育を通して、漁民の知識の底上げを図り、漁業発展の基礎を作ろうとしていたのであった。そこで如皋県においてまず実施されたのが漁民学校の設置であったのである。

「如皋県漁業推广所漁民日夜補習学校招生简章」から見ると、学校設立の主旨は漁民の休漁期に日常生活に必要な技能や知識を教えることであった。年齢・性別に関係なく、漁民の子弟は入学できた⁹³⁾。昼間部と夜間部に分けられ、昼間部課程では常識、識字、如皋県および江蘇省の漁業概況、水産学大意、漁撈術・実習、漁具学・実習、魚類習性・洄遊、珠算・筆算、習字の課程などが教えられた。一方、夜間部課程では識字、漁具学および実習、本県および本省漁業概況、水産学大意、珠算・筆算の課程を教えられた。時間があれば、新聞や歴史本を読んだり、蓄音機で音楽を聞いたりした⁹⁴⁾。昼間部と夜間部はともに漁業に関する知識を教えたが、最も大きな相違点は昼間部が漁撈と漁具の実習をも教えたことである。授業料や文具などの学習用品の費用は免除されたが、途中退学した場合には各費用を支払わねばならなかった⁹⁵⁾。これまでの検討から

見れば、漁民補習学校は漁民に識字、基礎的な水産知識を教えるだけでなく、賭博などの漁民生活上の悪い習慣を改めさせ、新たな娯楽を持たせるようにしていた。

漁民補習学校では6月に募集要項を公表し、7月から授業が開始された。学校は直鎮漁民が集中する何家灶の都天廟に立地していた⁹⁶⁾。なぜなら、何家灶の漁民らは百数十戸に及んだが、学校が設置されたことがなく、文字を読める者が極めて少なかったからである。

最初は小学校1年生や2年生しかなかったが、その後、順調に4年生まで設置された。人数は多い時には5、60人に達した。2年目から成人夜間学校も設立された⁹⁷⁾。夜間学校では識字のほかに、楽器演奏などの娯楽も教えられた。教員は曹月如1人のみであった⁹⁸⁾。

以上のように、水産知識を伝習しようとするれば、漁民の知識や見識の一新が必要であると認識した漁業指導所の指導員は、漁民向けの識字運動など、様々な取り組みを展開した。如皋県では、漁民小学校や夜間学校を設置することで、初歩的な識字、漁業に関する知識、娯楽など多方面にわたる、広い意味での漁民教育を試みたのであった。

おわりに

清末民国期の中国では、日本の農商務省水産講習所を模倣しながら水産教育を次第に展開しつつあった。沿海各省には水産学校も設置されたが、すでに検討してきたように、漁民は水産学校に入学できず、水産学校の卒業生も漁業に従事しなかった。このように「水産知」をどのようにして現場の漁民にまで伝播すればよいのか、それが当時の水産教育上の大きな課題であった。一方、1930年代に入ると、日本の「侵漁」と海賊の猖獗という2つの問題に直面し、水産人材は根本から漁民を救済するために、漁民の生活に関わる様々な活動を展開した。

まず1931年には「江蘇省上海市改進黨業宣伝会」という展覧会を開催し、漁民および社会全体に向かって漁業の重要性を認識させようと試みた。次に漁業調査、漁民との接触を通じて漁村・漁民の現状を掌握し、水産知識の伝習、漁民の識字運動、娯楽の改善などの多方面から広い意味での漁民教育を提案した。さらにかかる事業を実施するために、漁業が発達した地域に漁業指導所を設置し、現地において漁民を直接指導した。たとえば、江蘇省如皋県では、漁民小学校や夜間学校が設置され、漁民教育が施された。1つの事例ではあるが、中国の漁業・漁民にとっては大きく重要な一歩であったことは間違いない。

かかる漁業指導所は、不定期の水産知識の講演から、漁村における常設の漁業機関による漁民への水産指導・知識の伝習への転換に重要な役割を果たした。また1936年には、如皋漁業指導員は漁民と協力して漁網を改良したり⁹⁹⁾、漁民を試験船に乗せて漁撈試験を実施したりしている¹⁰⁰⁾。これは漁民向けの水産教育、漁民救済の重要な一環であったといつてよい。しかし戦時に突入すると、漁業指導所は事業を停止するようになった¹⁰¹⁾。そして戦後にいたって、漁村における水産教育、水産事業の改良がどのように再開・復活したのかは重要な課題となろう。紙幅は尽きた。別稿を期したい。

注

- 1) 「浙江省立水産学校暑期水産講習会開講」(『漁況』第6期、江蘇省農鋳庁刊行、1930年8月)5頁。
- 2) 黄文澧「水産企業の科学化」(黄文澧主編『中国建設』水産専号(上)第3巻第3期、中国建設協会、1931年3月)45頁。
- 3) 李士豪・屈若攀『中国漁業史』(商務印書館、1937年)125~138頁。
- 4) 楊峻懿「民国初期における江蘇省立水産学校の人材育成への模索」(京都大学大学院人間・環境学研究科社会システム研究刊行会『社会システム研究』第24号、2021年)316~317頁。
- 5) 孫善根『浙江海洋文明史(民国卷)』第2冊(商務印書館、2017年)303~307頁。
- 6) 李士豪・屈若攀前掲書、秦錦清「中国近現代海洋水産教育研究」(浙江海洋大学專業学位碩士論文、2020年)。
- 7) 李士豪・屈若攀前掲書、88~90頁、秦前掲論文、108頁、從子明・李挺主編『中国漁業史』(中国社会科学出版社、1992年)92頁。
- 8) 『江蘇省上海市改進黨業宣伝会記念冊』(江蘇省上海市改進黨業宣伝会出版、1931年12月、上海市図書館蔵)。
- 9) 黄文澧主編『中国建設』水産専号(上)(第3巻第3期、中国建設協会、1931年3月)、『中国建設』水産専号(下)(第3巻第4期、中国建設協会、1931年4月)。
- 10) 費鴻年「对于中国水産研究指導機關の意見」(前掲『中国建設』水産専号(下))25~26頁。
- 11) 「在中国水産中等学校の卒業生已不下二、三千人、而現在仍在從事水産者、還不及百分之一、其中多数還是到過外国之後、纔回来從事水産業的。所以要提高水産教育的効率、祇可少辦中等水産学校、而專辦一個水産專門学校、学生人数不必多。其他的中等水産学校最好改為漁業小学及漁民補習学校。漁業学校収漁民子弟、校授以公民的必要智識、再給与若干之水産智識、使其卒業后仍為漁民。漁民補習学校則為短期之講習会性質之学校、授以識字及衛生、公民道德諸科、而再講若干關於中国漁民所宜知道的事情」(同上、30頁)。
- 12) 侯朝海「中央及各省应有之水産教育施設」(前掲『中国建設』水産専号(上))50頁。
- 13) 1924年6月に、江蘇省立水産学校の学生は授業をボイコットして、学校の教員を監禁したり、校長を辞任させたりする騒動であった(楊前掲論文、311~312頁)。
- 14) 同上、316頁。
- 15) 「漁場之優、水産之富、曠觀各国、罕与倫比。徒以沿海漁民僅知墨守陳法、而政府又無奨励・改良之方、故水産事業不但毫無進展、而渤海・黄海・南海之漁場反為日人所攘奪。其在我国所獲之水産生物運回製造、仍復輪來販売。即此一項、我国損失年達一億四千万有奇、猶未已也。權利不図挽回、鉅大之漏卮不思杜絶、則民生憔悴」(曾養甫「序」、前掲『中国建設』水産専号(上))。
- 16) 侯朝海「(第28号案)救濟漁民之實施辦法案」(『江蘇省沿海漁業保護會議記錄』1931年、上海市図書館蔵)45頁。
- 17) 張楚卿「浙江水産業改進黨權」(前掲『中国建設』水産専号(上))77~78頁。
- 18) 「現在漁民泰平均目不識丁、全恃歷來之經驗、相伝之成法。欲灌以水産業之新智識、実覚難甚!故為将来改良起見、不得不施以補習教育。先于現在漁業繁盛之区設立漁民補習學習使受短期的訓練、或利用其不漁期間、由漁業团体負責召集、作一短期之講演会、引起其向學之興趣、而后再循序漸進、灌輸新智識、方可有改良之希望」(同上、78頁)。
- 19) 農商令第284号(1917年11月31日)「漁業技術伝習所章程」(『最新編訂民法令大全』商務印書館、1924年)1195頁。
- 20) 同上。

- 21) 「農商部咨浙江省長為令派技士李士襄前赴定海籌辦漁業技術伝習所請查照文」1918年1月10日(『政府公報』第728期、1918年1月31日)27頁。
- 22) 農商令第387号(1918年2月26日)「定海漁業技術伝習所伝習規程」(前掲『最新編訂民国家法令大全』)1196頁。
- 23) 農商委任令第56号(1918年5月6日)「茲派李士襄充定海漁業技術伝習所所長此令」(『政府公報』第832期、1918年5月18日)7頁。
- 24) 張震東・楊金森『中国海洋漁業簡史』(海洋出版社、1983年)35頁。
- 25) 「委任令 江蘇省長公署委任令第42号(1920年6月7日)令王文泰：委任王文泰為海州漁業技術伝習所所長此令」(『江蘇省公報』第2321期、1920年6月13日)1頁。
- 26) 楊前掲論文、302頁。
- 27) 前掲「定海漁業技術伝習所伝習規程」、侯朝海『中国水産事業簡史』(上海人民出版社、2016年)39頁、李士豪・屈若寧前掲書、101~102頁、秦前掲論文、100頁。
- 28) 孫前掲書、299頁。
- 29) 同上、300頁。
- 30) 李士豪・屈若寧前掲書、102頁。
- 31) 田家鼐「海州漁業技術伝習所民國九年份巡回講演日記」(『江蘇實業月志』第22期、報告、1921年1月)1~13頁。
- 32) 「9月21日、本所布告墟溝附近漁民、定明晚5・6兩時為講演漁業新法、7・8兩鐘為講演幻灯時期。翌晨(即22日)細雨濛濛、雲繞山端、午后風向轉入西北、天氣逐漸晴朗。漁民到所聽講者計達二百余人、來賓到所者計數十人。因人数甚衆、在院中露天講演。先由所長報告講演宗旨、繼由技術員田家鼐等將外国各種重要漁業暨蘇省漁業應行改良事項逐一講演、歷時甚久。另有白話淺說發給漁民轉相伝講。旋即開演幻灯、計演五百余片。均甚清顯聽講后、漁民頗多贊揚外国漁法巧妙、欣欣羨慕。併有多数漁民向所要求定期統演。由此一端可見漁民樂于向善、易于改革矣」(同上、1~2頁)。
- 33) 張樹莊「江蘇省最早的成人職業學校——海州漁業技術伝習所」(喻太源・曹寿田主編『杏壇軼事』連雲港市文史資料第14輯、政協連雲港市委員會文史資料委員會)144頁、李士豪・屈若寧前掲書、103頁。
- 34) 「浙江全省濱海、魚塩富饒、祇以漁民塩民智識幼稚、未能尽量利用、貨棄于地、甚為可惜。該省建設庁對水産事業、非常注意、除將定海之水産學校整飭擴充、以期造就人才外、併為水産事業推廣宣傳與改良起見、訓令該校校長張柱尊、准予開辦暑期水産講習會、招致沿海各縣小学教師前來、授以水産各科常識、併供給膳宿」(前掲「浙江省立水産學校暑期水産講習會開講」5頁)。
- 35) 「浙江省立水産科職業學校暑期水産講習會簡章」(浙江省立水産科職業學校編『浙江省立水産科職業學校校刊』「本校大事記」、中華書局、1930年4月)24頁。
- 36) 「浙江省立水産學校暑期水産講習會閉幕」(『漁況』第8期、江蘇省農鋸庁、1930年9月)4頁、李士豪・屈若寧前掲書、80~81頁。
- 37) 「各講師均系水産學專家、如吳淞水産學校校長馮立民、及該校教員曹仲牧、江蘇省農鋸庁技正侯朝海、技士陳謀琅、江蘇省漁業試驗場王文泰、與該校教員黃文澧、張楚卿、金心衡等、皆一時之俊(中略)尚有黃文澧之水産企業科學化、及世界水産事業概要諸演講。聽講員有不遠千里而來者、雖溽暑困人、而研究之精神、併不因以稍減。誠水産業前途之好現象也」(前掲「浙江省立水産學校暑期水産講習會閉幕」4~5頁)。
- 38) 前掲「中央及各省應有之水産教育施設」51頁。
- 39) 「中国沿海漁區、迭遭日本漁船越界侵捕、1年之間、權利喪失、不知凡幾。我国人士、注意者雖不乏人、抗議者尚難多睹。揆厥原因、係中国之漁業未臻發達、故所有漁區、自不捕捉、遂使外人侵越。江

蘇省農鋤庁・上海市社会局有鑒于此、乃發起舉行改進漁業宣伝会、從倡導漁業着手、而反對外人越海侵捕之根本。茲聞此会業由江蘇省党務整理委員會、上海市党部、江蘇省農鋤庁、上海市政府社会局、江蘇省立漁業試驗場等五機關連合組織、函請漁業機關团体、学校、專家、及其他有關係者共同參加。共定宣伝經費 2100 元、由農鋤庁、社会局、漁業試驗場三機關各任三分之一」（『積極籌備改進漁業宣伝会』『農業周報』第 72 号、中国農学社出版、1931 年 3 月 1 日、659 頁）。

- 40) 前掲『江蘇省上海市改進漁業宣伝会記念冊』「後編：江蘇省上海市改進漁業宣伝会情況」「會議記錄」、11~18 頁。
- 41) 「侯朝海履歷登記表」（上海海洋大学蔵、1951 年）。
- 42) 前掲『江蘇省上海市改進漁業宣伝会記念冊』「後編：江蘇省上海市改進漁業宣伝会情況」「江蘇省上海市改進漁業宣伝会辦事細則」5~6 頁、「職員名録」10 頁。
- 43) 劉利民「論民国时期日本对華侵漁活動及其特点与影響」（『吉首大学学报（社会科学版）』第 27 卷第 2 期、2006 年 3 月）53 頁。
- 44) 「各種事業之進展、実有頼于智識界為之倡導。年来有識之士、知実業之不興、不足以救中国之危亡、大有奔走呼号、声嘶力竭、以從事于各種実業之提倡宣伝者。独水産事業則仍為社会人士所漠視。此非水産之利、未足以福国而利民、蓋数千年来、賤魚二字、已深入人心之所致耳。故振聾發聵有非頼我智識界宣伝莫属者矣」（『江蘇省上海市改進漁業宣伝会宣言』、前掲『江蘇省上海市改進漁業宣伝会記念冊』）。
- 45) 「因循守旧、為吾国人祖伝之劣根性、無待諱言。一漁法、則父作子述、多年無改。一漁具、則新做旧制、永不更張。而且企業心生來薄弱、浮家汜宅、祇在一飽。其稍有資本者、亦得過且過、無較大規模之設計。如此景况、欲謀振興、保護之獎勵之、固不当、緩而先決之問題、舍為改進之宣伝不為功」（同上、姜玉枝「我對於江蘇省上海市改進漁業宣伝会成立之感想」）。
- 46) 「改進漁業宣伝会述要」（『江蘇農鋤』第 6 期、江蘇省農鋤庁、1931 年 5 月 10 日）7~9 頁、「改進漁業宣伝会今日開幕」（『申報』1931 年 4 月 4 日）、李士豪・屈若峯前掲書、88~89 頁、秦前掲論文、108 頁。
- 47) 侯朝海「漁業之推广」、前掲『江蘇省上海市改進漁業宣伝会記念冊』。
- 48) 錢仲南「江浙沿海漁業發展問題」、前掲『江蘇省上海市改進漁業宣伝会記念冊』。
- 49) 前掲侯朝海「漁業之推广」。
- 50) 李兆輝「提高漁民智識之初步辦法」、前掲『江蘇省上海市改進漁業宣伝会記念冊』。
- 51) 「吾国漁民、当休漁之際、以賭博為唯一之娛樂。漁民蒼翠之地、博場櫛比、呼囂喧嘩、喧囂達旦。而一般奸民又迎合漁民之心理、甘言引誘、以遂其抽頭漁利之目的。於是漁民更多壞心病、墮道德、破家蕩産、以從是賭博者。其他如酗酒滋事、以取快一時、亦為漁民惡習、凡此皆有極大之危害者也。補救之法、惟有提倡漁民正当之娛樂、如組織漁民俱樂部、建設漁民運動場等等、皆為改善漁民娛樂之急務。則休漁之期、漁民得娛樂之正鵠、入於此者必出於彼、歸乎正者必棄于邪、而奚暇夫外慕哉。他如操艇競渡、游泳比賽等、既可作休漁期之娛樂、凡可練習漁民应有之技能、亦法良意美者也。惟漁民智識薄弱、腦筋簡單、旨趣情緒、亦有特殊」（徐鳴鵬「漁民娛樂法之改善談」、前掲『江蘇省上海市改進漁業宣伝会記念冊』）。
- 52) 金心衡「發展漁業声中的注意点」、前掲『江蘇省上海市改進漁業宣伝会記念冊』、王宗培「中国沿海之漁民經濟」（『經濟学季刊』第 3 卷第 1 期、1932 年 5 月）125 頁、李士豪『中国海洋漁業現状及其建設』（商務印書館、1936 年）207 頁。
- 53) 前掲金心衡「發展漁業声中的注意点」。
- 54) 「由農鋤庁委派富有水産專門學術之人才赴沿海各地、切實調查、從事宣伝、尽力指導、擬定改善漁業之計畫、便命漁民採用新式魚具、改善染料網線等事。併于重要港埠、酌量情形、設立海洋調查所、

養殖試験場、漁業試験場、製造試験場) (灌雲県漁会代表王宗琴 (第32号原案)「根拠漁業情形漁民痛苦謹具提案以謀将来之發展目前之保護案」、前掲『江蘇省沿海漁業保護會議記録』、47~48頁)。

- 55) 「漁業者之成功与發達、是在他們用漁具之是否優良。近年欧美的水産先進國、对于魚獲物要怎樣地求產額の増進、他們是費尽了心血。且經多年的試驗、唯一的目的是求漁具の改良。我国漁業之所以不振、多大的原因、亦是在這一点。我国的漁業者把数千年来祖宗所伝下の漁具漁法以為法寶、絶不稍加一点改良、這当然是缺乏了指導和提倡的原故。而他們的漁獲物不能得到多量的產額、這是勢所難免的。我以為政府看到這着、要緊急地設立水産試驗場、從事各種漁具和漁法の試驗和改良、以因補救于万一」 (前掲「水産企業の科学化」、21頁)。
- 56) 郭振民『嵎泗漁業史話』嵎泗文史資料第3輯 (海洋出版社、1994年) 318頁。
- 57) 同上。
- 58) 「本場附設漁業指導所最新進行狀況」 (『漁況』第33期、江蘇省立漁業試驗場刊行、1931年12月) 9~10頁、郭前掲論文、320頁、秦前掲論文、101~102頁、舟山市政協文史資料委員會・嵎泗県文史資料委員會編『舟山海洋魚文化』舟山文史資料第3輯 (海洋出版社、1994年) 89~90頁。
- 59) 「省立漁業試驗場附設漁業指導所近訊」 (『江蘇省実業庁半月刊』第1期、1932年2月) 24頁。
- 60) 「江蘇各県漁業指導所一覽表」 (『申報年鑑』申報六十周年記念創刊、上海申報年鑑社、1933年) 311頁。
- 61) 「1、江蘇省立漁業試驗場暨各県漁業指導所為培植漁業指導人員、依照本辦法招收漁業訓練生訓練之。2、省立漁業試驗場招收訓練生2名、應以本省沿海各県籍者為限。其南通、如皋、塩城、常熟各県農業改良場附設之漁業指導所、應各就本県招收2名」 (『江蘇省漁業指導人員訓練辦法』「農鋳庁招考漁業練習生」『漁況』第26期、江蘇省立漁業試驗場刊行、1931年9月、2頁)。
- 62) 同上。
- 63) 「錄取漁業練習生」 (『江蘇農鋳』第52期、江蘇省農鋳庁刊行、1931年11月) 13頁。
- 64) 李士豪・屈若寧前掲書、81頁、「実業庁招考漁業練習生」 (『漁況』第45期、江蘇省立漁業試驗場刊行、1932年8月) 1頁。
- 65) 同上、「実業庁招考漁業練習生」。
- 66) 同上。
- 67) 「江蘇省実業庁為培植本省漁業人才、為将来实施漁業指導之準備起見、依照江蘇省漁業指導人員訓練辦法、招考漁業練習生。併規定分3級訓練、其時期定為2年至3年。每年訓練順序、先授課兩月、次実習兩月、再次助理工作八月。由庁派定技正侯朝海及本場場長王文泰、会同主辦訓練事宜。本年度已先在本場開始授課」 (『蘇実業庁在本場訓練漁業練習生近訓』『漁況』第48期、江蘇省立漁業試驗場刊行、1932年10月7頁)。
- 68) 同上。
- 69) 「本場訓練漁業練習生近訓」 (『漁況』第52期、江蘇省立漁業試驗場刊行、1932年12月) 7頁。
- 70) 李士豪・屈若寧『中国漁業史』によれば、1934年に実業庁が建設庁に合併されたことで、漁業練習生制度は中止となったという。ただし実業庁と建設庁が合併されたのは1932年12月のことであった。また1933年以降の新聞や雑誌の中には漁業練習生に関する記事は見当たらない。総合的に考えると、1934年ではなく1932年が正しいと思われる。
- 71) 「南通漁業指導所近訊」 (『漁況』第38期、江蘇省立漁業試驗場刊行、1932年3月) 8~9頁
- 72) 「本場史略」 (『皋農』第2卷第1期、如皋県農業推広所出版、1932年1月) 1頁。
- 73) 「復刊的話」 (『皋農』第3卷第1期、如皋県農業推広所出版、1933年10月) 2頁。
- 74) 同上。
- 75) 『皋農』 (如皋県建設局皋農月刊社、第7卷第2期、1937年2月)。

- 76) 如皋県出身、1919年に江蘇省立水産学校製造科を卒業した（江蘇省立水産学校編『江蘇省立水産学校記念冊』「校友録」、1922年、13頁、上海海洋大学蔵）。
- 77) 「南通如皋両漁業指導所即將正式成立」（『江蘇省実業庁半月刊』第1期、1932年2月）23頁。
- 78) 冷楓「如皋県漁業生産指導所始末」（政協如東県文史資料委員会『如東一鎮一耕茶』如東文史資料第5輯・科技史料、1989年12月）206頁。
- 79) 「你們隻要把遭遇的痛苦情形、通統說出來、由我們負發展漁業使命者來研究得失、規定緩急、逐漸舉辦。把你們的特殊負擔和一切的苦痛、一步一步的減少乃至取消。一方面設法使你們增加生產和利益、同時再利用空閑時期、灌輸漁業智識給你們和你們的子弟、使得你們萬事不求人、可以各自發展本能。所以漁業指導人員、第一步要調查你們的詳細情形、就是作改善漁業的參考罷了、請你們切勿誤會到捐稅上面去！總之：我們是負改善漁業的使命而來的、決不要取你們的膏血、來加重你們的負擔」（『如皋縣農業推廣所漁業指導員敬告漁業界書』『皋農』第3卷第1期、如皋縣農業推廣所出版、1933年10月、12頁）。
- 80) 李士豪前掲書、191～192頁。
- 81) 「如皋縣農業推廣所漁業指導員民國二十二年度工作進行計畫書」（『皋農』第3卷第3期、如皋縣農業推廣所出版、1933年12月）8頁。
- 82) 「本県漁業の厄運——海賊給予漁民の損失」（『皋農』第4卷第5期、如皋縣農業推廣所出版、1934年5月）12頁。
- 83) 同上、8～10頁。
- 84) 「如皋縣農業推廣所漁業指導員民國二十三年度工作進行計畫書」（『皋農』第4卷第9期、如皋縣農業推廣所出版、1934年9月）13頁。
- 85) 「海盜滋擾、是一個社会經濟衰落、漁民經濟破產所造成的——他們過慣海上生活、一旦失業、在破碎的生活中不能立足、便挺而走險的甘心犯法。如果漁業方面、改進得有成效、所得足以温飽、他們當然可以棄邪歸正、樂其所業了」（前掲「如皋縣農業推廣所漁業指導員敬告漁業界書」）11頁。
- 86) 「至目前挽救之方、當以改良漁具・漁法、擴大漁場以增生產、組織合作社推廣銷路、改良製品適合衛生而耐久貯、建築冷藏設備、以便運輸而增價值與舶來品競爭于市場、若是本県漁業前途庶有望焉。夫補救漁業蟻頰之方法、既如上述。然欲使毫無智識之漁民做効實施、為事實所不許。故須先作最有利之宣傳、開發漁民智識、精密調查漁民之環境與技術、而將切合漁民環境之漁具等着手改良之試驗之」（前掲「如皋縣農業推廣所漁業指導員民國二十三年度工作進行計畫書」、13頁）。
- 87) 王庭松「開會詞」（『漁民補習學校開學典禮特輯』『皋農』如皋縣農業推廣所出版、第4卷第8期、1934年8月）6頁。
- 88) 「設立漁民補習學校計畫及預算」（『皋農』如皋縣農業推廣所出版、第4卷第6期、1934年6月）9頁。
- 89) 曹旭「曹月如」（南通市教育局・南通市教育史料征集編寫辦公室編『南通市教育史料 南通市教育界人物伝略』、1988年）115頁。
- 90) 前掲「漁民補習學校開學典禮地特輯」「開會詞」6頁。
- 91) 「兄弟自來貴県、不覺已有十個月。環觀漁業方面要舉辦的事業很多（中略）例如此地漁業的生產加多、漁民財力的救濟、和漁業建設上所必要的設施、都是日前所急需辦理的事業。但是兄弟以人力和能力的單薄、以及經濟窘迫、都不能逐漸的做起來、這是兄弟所抱歎的所在。兄弟深覺得過去辦事困難原因：是漁民智識不開、旧思想不能打破、以及人力和財力不能集中。倘是要解決這幾項問題、非先與漁民接近不可。但是漁民智識很幼稚、併且很怕公務人員。所以要破除這一種隔膜、非從事開通漁民智識不可、要開通漁民智識、就當辦理學校。因此才想到把漁業推廣費中積存的錢、提來做本校的開辦費」（前掲「漁民補習學校開學典禮特輯」「報告籌辦經過情形」、6～7頁）。
- 92) 前掲「江蘇各県漁業指導所一覽表」。

- 93) 「如皋県漁業推广所漁民日夜補習学校招生簡章」(「設立漁民補習学校計画及預算」『皋農』第4卷第6期、如皋県農業推广所出版、1934年6月) 10~11頁。
- 94) 同上。
- 95) 同上。
- 96) 前掲「漁民補習学校開学典礼特輯」 「報告籌辦經過情形」 7頁。
- 97) 曹旭「回憶家父曹月如」(政協如東県文史資料研究委員会編『如東文史資料第4輯 教育史料・豊利史料』、1988年) 98~99頁。
- 98) 同上。
- 99) 「如皋漁業指導員挙辦合作試験改良挿網規則」(『皋農』第6卷第1期、如皋県建設局皋農月刊社、1936年1月) 3頁。
- 100) 「如皋県漁業指導船開始実施指導」(『上海市水産経済月刊』第5卷第3期、上海市漁業指導所出版、1936年4月) 10頁。
- 101) 前掲「回憶家父曹月如」 99頁。

〔謝辞〕本研究は、三島海雲記念財団（2021年度）による助成を受けたものである。ここに記して感謝の意を表したい。